

跳跳蛙  
日语读库



にほんご よむよむ文庫

Vol.1 4 ① 雪 女

ゆき おんな



NPO法人 日本語多読研究会 主编

小泉 八云 原著

(日) 栗野 真纪子 缩写

久保 考莱奥 插图



# レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

Vol.1 **4** (1)

ゆき おんな  
**雪女**

音声CD入り

あ おおゆきの ひ、みの きちと もさくは、  
川 かわの そばの こやに と泊まることにな  
った。真夜中 まよなか、みの きちが め さま  
すと、白 しろい きもの着物を き ふ し ぎな  
女 おんな あらわが あ ら われて……。

ギリシャ う さつ か生まれの作家、ラフカ  
ディオ・ハーン のち こい み やく くも (後の小泉八雲)が  
集 あつ に ほん こわ はなしめた日本の怖いお話。

にほんご よむよむ文庫



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズで  
す。4レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろ  
んな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読  
みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いていますか  
ら、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル	クラス	語彙数	文字数／1話
1	初級前半	350	400 ~ 1500
2	初級後半	500	1500 ~ 2500
3	初中級	800	2500 ~ 5000
4	中級	1300	5000 ~ 10000



跳跳蛙  
日语读库



にほんご よむよむ文庫

Vol.1 4① <sup>ゆき</sup>雪 <sup>おんな</sup>女

NPO法人 日本語多読研究会 主编  
(日) 小泉 八云 原著  
栗野 真纪子 缩写  
久保 考莱奥 插图

外语教学与研究出版社  
北京

京权图字: 01 - 2008 - 1934

© Originally Published by ASK Co., Ltd., Tokyo Japan

### 图书在版编目(CIP)数据

跳跳蛙日语读库. Vol.1. 4. ① / 日本 NPO 法人日本語多读研究会主编. — 北京: 外语教学与研究出版社, 2008.5  
ISBN 978 - 7 - 5600 - 7523 - 5

I. 跳… II. N… III. 日语—自学参考资料 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2008) 第 064621 号

出版人: 于春迟

责任编辑: 刘宜欣

装帧设计: 王 军

出版发行: 外语教学与研究出版社

社 址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址: <http://www.fltrp.com>

印 刷: 北京国邦印刷有限责任公司

开 本: 880 × 1230 1/32

印 张: 1.25

版 次: 2008 年 7 月第 1 版 2008 年 7 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 978 - 7 - 5600 - 7523 - 5

定 价: 34.90 元 (全四册)

\* \* \*

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)88817519

物料号: 175230001

跳跳蛙  
日语读库



にほんご よむよむ文庫

Vol.1 4① <sup>ゆき</sup>雪 <sup>おんな</sup>女

NPO法人 日本語多読研究会 主编  
(日) 小泉 八云 原著  
栗野 真纪子 缩写  
久保 考莱奥 插图

外语教学与研究出版社

北京

试读结束：需要全本请在线购买：[www.ertongbook.com](http://www.ertongbook.com)

京权图字：01 - 2008 - 1934

© Originally Published by ASK Co., Ltd., Tokyo Japan

图书在版编目(CIP)数据

跳跳蛙日语读库. Vol.1. 4. ① / 日本 NPO 法人日语多读研究会主编. — 北京: 外语教学与研究出版社, 2008. 5

ISBN 978 - 7 - 5600 - 7523 - 5

I. 跳… II. N… III. 日语—自学参考资料 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2008) 第 064621 号

出版人: 于春迟

责任编辑: 刘宜欣

装帧设计: 王 军

出版发行: 外语教学与研究出版社

社 址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址: <http://www.fltrp.com>

印 刷: 北京国邦印刷有限责任公司

开 本: 880 × 1230 1/32

印 张: 1.25

版 次: 2008 年 7 月第 1 版 2008 年 7 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 978 - 7 - 5600 - 7523 - 5

定 价: 34.90 元 (全四册)

\* \* \*

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)88817519

物料号: 175230001

## 日本語を勉強しているみなさんへ

「にほんごよむよむ文庫」は、

日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。

楽しみながらたくさん読んでください。

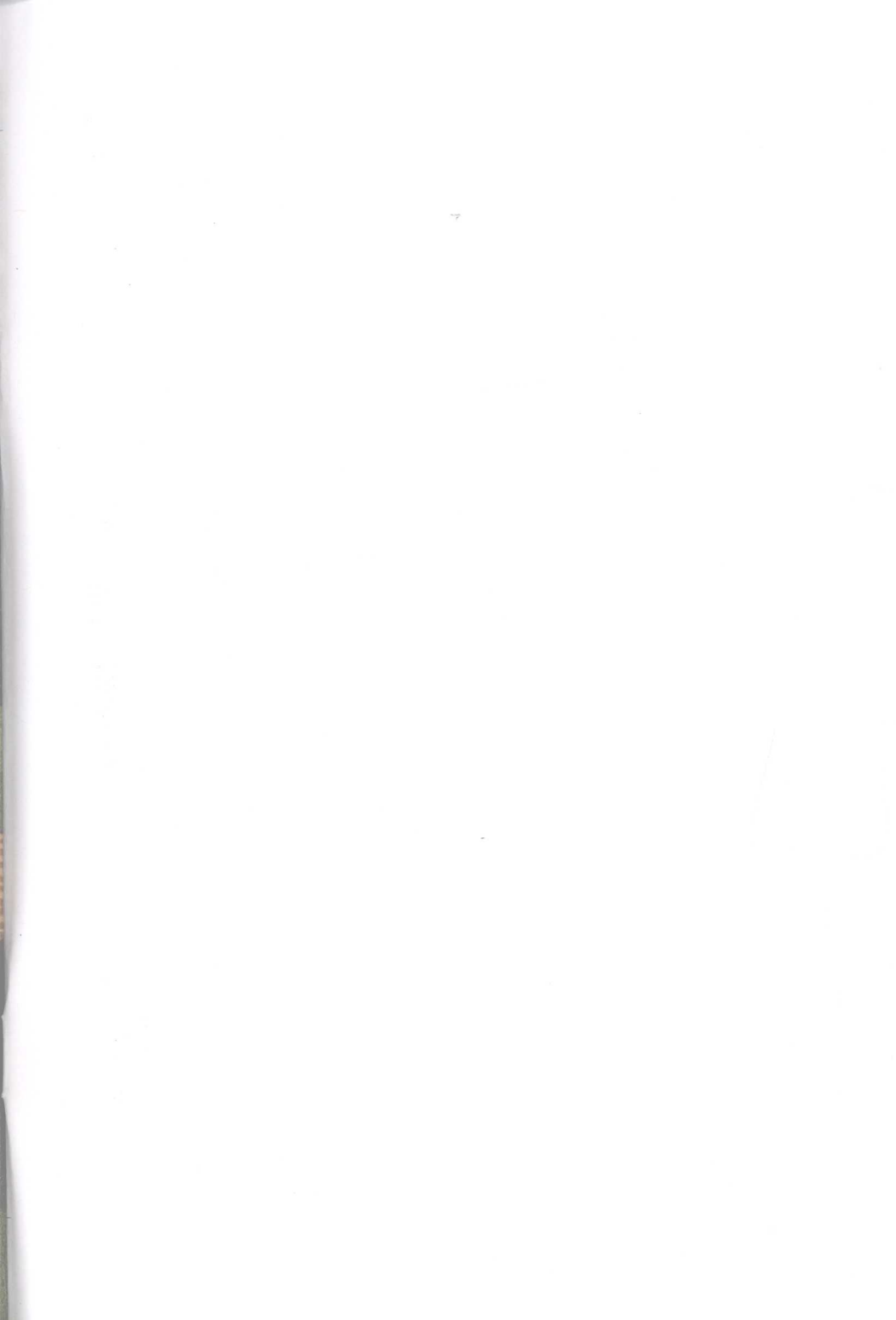
わかるものをたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。

読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいですよ。

目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

## 「にほんごよむよむ文庫」4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。





ある村に、茂作と巳之吉という二人の男がいた。

二人は山で木を切つて、それを売つ

て生活していた。茂作は六十歳で、

一人暮らしをしていた。巳之吉は十

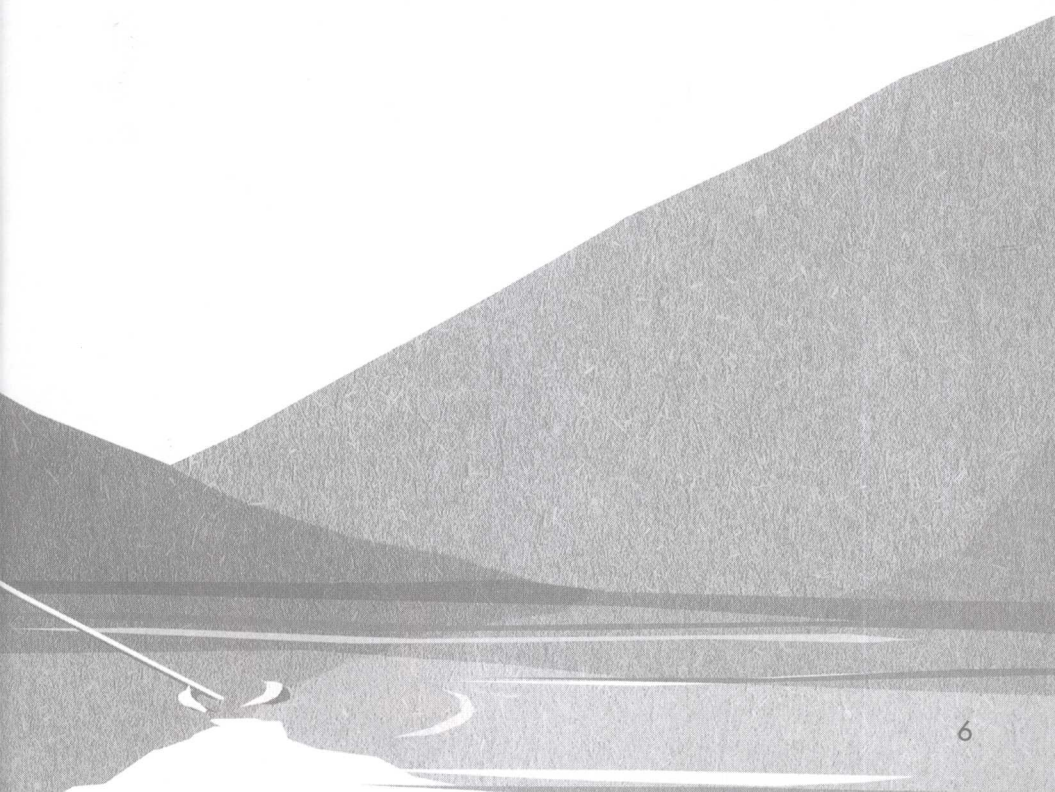
八歳で、母と二人で暮らしていた。



毎日、巳之吉と茂作は一緒に山へ出かけた。

村から山まで行く途中に、大きな川があった。そこには渡し守がいる。渡し守は、舟に人を乗せて川の向こう側へ運ぶ。

二人は毎日、川まで来ると、渡し守に舟で川の向こう側へ運んでもらった。山から帰るときは、また、渡し守に舟で川のこちら側まで運んでもらうのだった。



ある冬の寒い日のことである。

この日も、茂作と巳之吉は、朝から山へ行って木を切った。暗くなったので、二人は仕事をやめ、帰ることにした。この日は、いつもよりずっと寒かった。

「今日は寒いなあ。きつと雪が降るよ。巳之吉さん」

茂作が暗い空を見ながら言った。

「本当に寒いですねえ。雪が降りますねえ。早く帰りましょう」

と、巳之吉が答えた。



二人は急いで歩き始めた。しばらく歩くと、空から白いものがちらちらと降ってきた。やはり雪が降ってきたのだ。雪はどんどん激しくなった。あつという間に地面が雪で白くなった。

二人とも、心の中で同じことを思っていた。

—— 今晩は大雪になりそうだ。ああ、寒い。早く舟に乗りたい。そして、家に帰りたい ——

二人は黙って歩いた。川に着く前に、もう辺りは一面雪で真っ白になっていた。遠くの山も木もみんな真っ白だ。

やっと川に着いた。渡し守がいつも客を待っている小屋も真っ白だった。

「あつ！ 舟がない」

二人は小屋の戸を開けた。しかし、その小屋に渡し守はいなかった。渡し守は、雪がたくさん降ってきたので、仕事をやめて帰ってしまったのだろう。



「困ったなあ」

「これでは家に帰れないなあ」

雪はますます激しく降ってくる。二人はとても困って、しばらく川をじっと見ていた。

「雪はこんなに降っているし、寒いし……。仕方がない。明日までこの小屋で待とう」

二人は小屋に入った。小屋はとても小さくて、戸が一つあるだけで、窓もなかった。二人は何もすることがないので、その小屋で横になって休んだ。

茂作はすぐに眠ってしまった。しかし、巳之吉はなかなか眠れなかった。長い間、風の音や雪の降る音を聞いていた。大きな音だった。空と山が怒っているような恐ろしい音だった。川の水もゴーゴーとすごい音で流れていた。小屋は風でガタガタ揺れていた。空気がだんだん冷たくなっていく。巳之吉は寒いし、怖いし、なかなか眠れなかった。しかし、疲れていたので、しばらくすると眠ってしまった。



どのくらい時間が経ったのだろうか。

——冷たい！——

巳之吉は目を覚ました。顔が冷たい。まるで顔に雪が降ってきたようだ。目を開けると、小屋の戸が開いていた。風で雪がどんどん小屋の中に吹き込んでいた。小屋の中は雪でぼんやり明るかった。

——あれ、どうして、戸が開いているんだろう。風で開いてしまったのだろうか。おや？ だれかいるようだ——

巳之吉は、横になったまま思った。

——確かにだれかいるぞ——



白い着物を着た人が、隣で寝ている茂作の上に乗っていた。

——だれだろう！ 茂作さんに何をしている

んだらう——

よく見ると、その人は黒く長い髪をしていた。

——女だ。女に違いない。でも、女がこんな

ところで何をしているんだらう——

巳之吉は起きようとしたが、体が動かなかった。

女は、茂作の顔にゆっくりと自分の顔を近づけ

ていった。そして、茂作の顔をフツツと吹き

かけた。その息は白い雲のようだった。女の口か

ら細く出てきた白い雲は、茂作の顔にかかり、そ

れからキラキラ光って空に上っていった。

